

吉川小学校 (大字平沼)

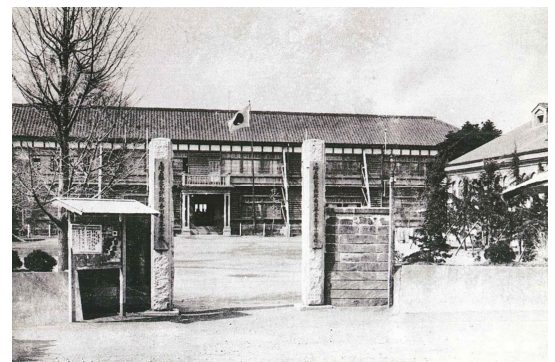
吉川小学校の始まりは明治6年に遡る。元となる
芳川・成新・木売の3校はいずれも地元の有志達により、それぞれ延命寺(吉川)・不動院(木売新田)・清浄寺(木売)に開校された。延命寺に開かれた芳川学校はのちに市内唯一の本校となり、市内の教員たちの研修の場にもなっていた。

明治22年(1889)に近隣の村々と合併して吉川村になると、学校も統合されて「芳川尋常小学校」となり、延命寺を学舎とした。明治29年(1896)には場所を移し、現在の吉川小学校が建つ場所に校舎を新築した。

また、明治27年(1894)には埼玉県で最古といわれる校歌が制定されたと伝わっており、当時のままの歌詞で現在まで歌い継がれている。



▲校旗



▲昭和10年代の校舎(吉川小学校開校百拾周年記念はがき)



▲校舎正面入口に飾られた井波彫刻まつり「木彫スクールパネルプレゼント」で当選・贈呈された額。パネルには吉川市のシンボルである「鯰」と校歌にある「若竹」が描かれている。



▲吉川小学校開校百拾周年記念事業協賛会による石碑。書は木村笛風



吉川市立

吉川小学校

Yoshikawa Elementary School

【学校教育目標】

- ・思いやりのある子・・・(徳育) 笑顔いっぱい(心のシンボル・・・くすの木)
- ・よく考える子・・・(知育) 学びいっぱい(学びのシンボル・・・校歌)
- ・たかましい子・・・(体育) 汗いっぱい(地域のシンボル・・・八坂祭り)

＊くすの木 初代吉川町長森田金次郎宅で育つ。樹齢250～260年。平成20年11月6日吉川市指定保存樹木。

＊校歌 明治27年制定。県内最古の校歌である。作詞者千家尊福、作曲者鈴木米次郎

＊八坂祭り 起源は慶長7年(1602年)。五穀豊穡の願い。俗称「鬼れ神楽」。

校訓「誠實・勤勉・協同」

▲吉川市教育ポータルサイトより。

旭小学校 (大字南広島)

旭地区では、明治6年に郁^{いくぶん}文学^{かわぶじ}学校と川藤^{かわぶじ}学校がそれぞれ東福寺^{とうふくじ}（八子新田^{はちこしんでん}）と東泉寺^{とうせんじ}（川藤^{かわぶじ}）に開設された。明治17年（1884）には川藤学校は郁文学学校の分校となり、上内川の普賢院にも分校が設置された。

明治25年（1892）10月25日、南広島に新築した洋風の二階建て校舎に移転し、この日を開校記念日とした。また、明治35年（1902）に南校舎1棟2教室を増築した際に植えられた榎^{えのき}は、現在も学校のシンボルとなっている。

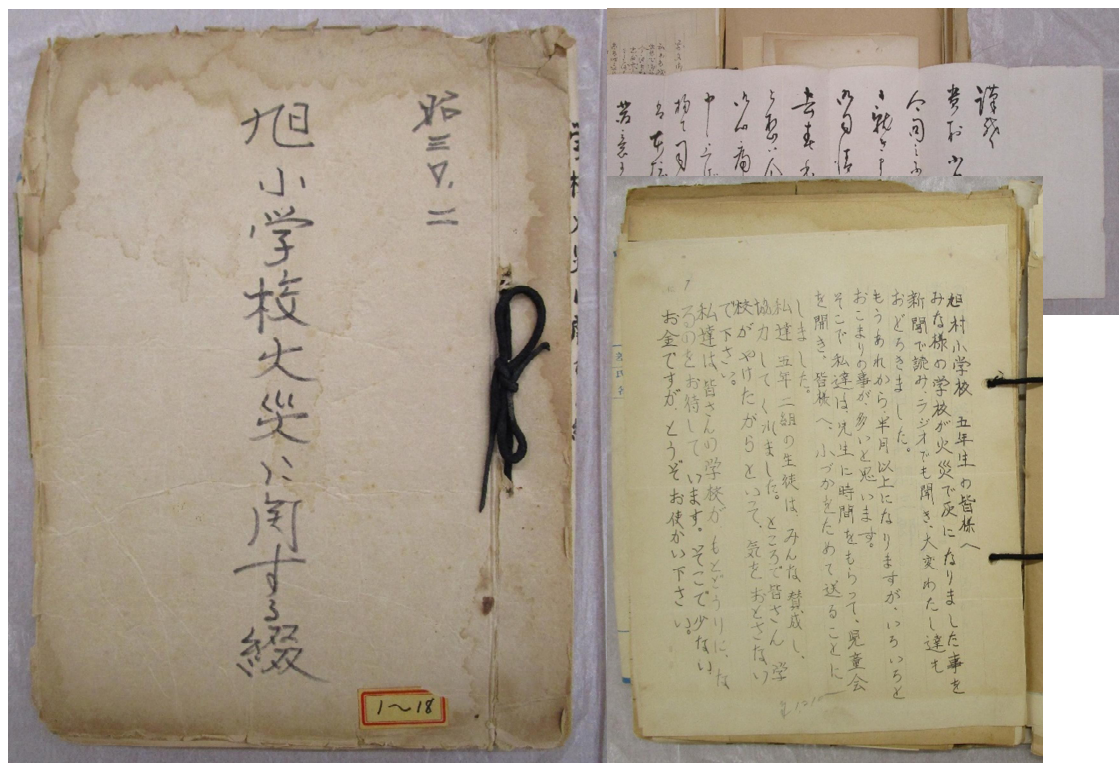
校歌と校旗は、それぞれ昭和41年（1966）3月、翌42年11月に制定された。校歌の作詞は埼玉県出身の国文学者・歌人の西角井正慶^{にしつのいまさよし}、作曲は河野道雄という人物であった。



▲校旗。町立時代のものも残されている。



▲開校100周年記念の航空写真



▲昭和30年（1955）2月に火災で全校舎を焼失したことに關する新聞記事や、寄付金の受領書などをまとめたスクラップ帳（旭小学校所蔵）



吉川市立

旭小学校

Asahi Elementary School

【学校教育目標】

「あすを生きる 豊かさ学ぶ あさひの子」

めざす児童像

【よい子】

よく聞きよく考える子

いじめをしない子

言葉をはっきり言う子

あかるい笑顔

・自分からのあいさつ、元気な返事、心がこもったお礼を言える子

・相手の立場を考えて行動できる子

・きまりやマナー、約束を守る子

さわやかな汗

・全力で体を動かし、体力を高める子

・力いっぱい外遊びができる子

ひとみ輝く

・自らの課題を見つけ、主体的に学習できる子

・自らの考えを堂々と発言できる子

▲吉川市教育ポータルサイトより。

三輪野江小学校 (大字加藤)

三輪野江地区でも、明治6年に時習^{じしゅう}学校^{しんぷくじ}が真福寺^{まふくじ} (土場^{どじょう}) に、致高^{ちこう}学校^{じょうゆうじ}が浄幽寺^{じょうゆうじ} (吉屋^{よしや}) に、上笹塚^{かみささづか}学校^{さいぞういん}が西蔵院^{さいぞういん} (上笹塚) に開設された。

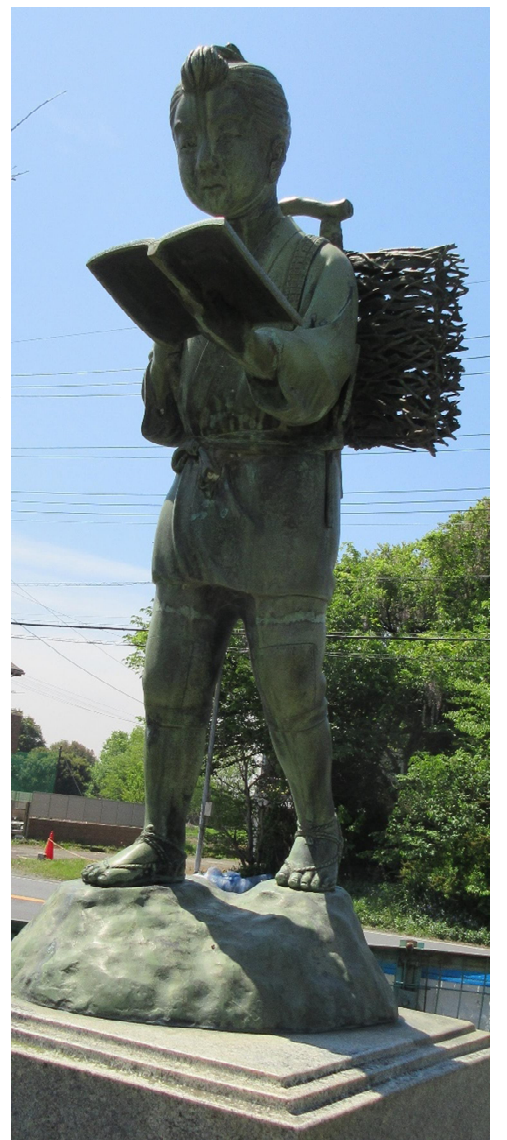
その後は統合や改称を繰り返し、明治28年(1895)に三輪野江村に隣接する深井新田^{ふかいしんでん}・平方新田^{ひらかたしんでん}が県域の変更で千葉県から埼玉県になると、新たに深井新田尋常小学校が開校する。

明治41年(1908)には、義務教育年限が延長されたことで第一・第二三輪尋常小学校と深井新田尋常小学校の名称を廃し、三輪野江尋常小学校と改称した。また、同年に現在の^{おおあざかとう}大字加藤に校舎を新築した。

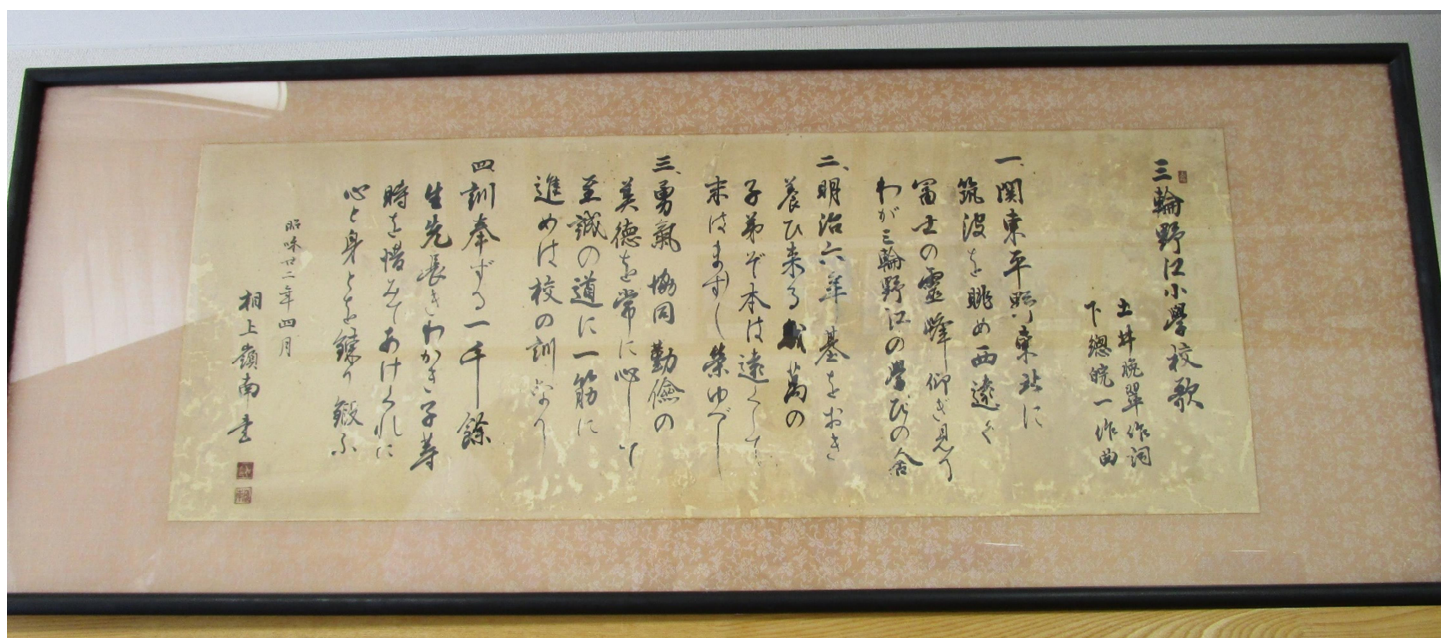
現在の形になるまでにおこなわれた学校の改称や合併の記録は、市内では三輪野江小学校が一番多い。



▲校旗。町立時代のものも残されている。



▶台座に昭和15年(1940)12月5日寄贈の銘板が残る二宮金次郎像。像自体は戦後再建されたものという。



▲昭和22年(1947)4月に書かれた校歌の歌詞額。書は相上嶺南(三輪野江小学校所蔵)



吉川市立

三輪野江小学校

Miwano Elementary School

【校長あいさつ】

みんな わくわく のびのび えがおで
148年を迎える みんなのふるさと 三輪野江小学校

本校は、明治6年に開校し、今年で148年を迎える伝統ある学校です。学校規模は、普通学級6、特別支援学級2の8学級、児童数201名(令和3年4月5日現在)の小規模校です。

「あきらめず挑戦できる子」
～「気持ちちはひとつ」 チームみわのえ～

▲吉川市教育ポータルサイトより。

関小学校 (吉川団地)

昭和48年（1973）4月1日の武蔵野線開通以降、吉川地区では人口の増加に合わせて小学校の開校が続く。そのはじめが、同日に開校した関^{せき}小学校である。同年3月30日に完成した吉川団地に隣接して建てられ、入居する家庭の子どもたちを多く受け入れており、令和4年（2022）に開校50周年を迎えた。

沿革によると、昭和52年（1977）11月15日に校歌と校旗が制定された。校歌の作詞をした^{あいだやちよ}会田八千代は開校当時に音楽と家庭科を担当していた教員で、栄^{さか}小学校の第4代校長を務めた。作曲の土^{ゆたか}肥^{しもおさかんいち}泰^{だんいくま}は浦和出身で、下総皖一、團伊玖磨に師事した作曲家・指揮者だった。



▲校旗

▼昭和48年（1973）4月1日から平成8年（1996）4月1日までの、吉川「町」時代に使用されていた開校当時の学校名の銘板（吉川市教育委員会蔵）



▲▶令和5年（2023）現在の校舎外観



吉川市立

関小学校

Seki Elementary School

【学校教育目標】

ひとりだちできる子
まなびあう
たすけあう
みがきあう

【学校の沿革】

本校は、1973年（昭和48年）4月1日に開校しました。
始業式39名、入学式13名でのスタートでした。

2022年（令和4年）に開校50周年を迎えました！
記念の航空写真撮影などを行いました。

▲吉川市教育ポータルサイトより。

北谷小学校 (大字高富)

地区内の人口の増加に伴い、吉川小学校から分離する形で昭和 50 年（1975）に開校したのが北谷小学校である。開校記念誌などの航空写真では、周囲には水田や住宅地が多く見られる。開校記念日は翌 51 年（1976）の 5 月 10 日で、52 年（1977）2 月には校歌と校章の発表会を開いている。

校歌の作詞をした宮澤章二^{みやざわしやうじ}は羽生市出身の詩人・作詞家で、下総皖一と出会って活動を始め、手がけた校歌の作詞は県内を中心に 300 校以上にのぼる。作曲の田中利光^{たなかとしみつ}は青森県出身の作曲家で、オーケストラ作品や合唱曲を多く手がけた人物である。



▲校旗。町立時代のものも残されている。



▲昭和 60 年（1985）2 月 19 日の開校 10 周年記念式典にあわせて作成された、記念誌「きたや」と航空写真帖（北谷小学校所蔵）



▲令和 5 年（2023）現在の校舎外観



▲吉川市教育ポータルサイトより。

栄小学校 (中央)

^{さかえ}
栄小学校は北谷小学校から分離し、開校は昭和54年（1979）4月1日である。昭和55年（1980）2月12日に校旗と校歌を制定して開校記念式典をおこない、この日を開校記念日とした。

校歌の作詞をした河合凱夫^{かわいがいふ}は旧三輪野江村（現吉川市中井）出身の俳人で、戦後は千葉県野田市に住まい小学校校長などを歴任した。作曲の^{やまざきはちろう}山崎八郎は千葉県野田市出身の作曲家で、下総皖一^{ささき}、佐々木すぐるに師事し、音楽教育番組やテレビドラマの音楽のほか、合唱曲などを多く手がけた人物である。



▲校旗



▲▶令和5年(2023)
現在の校舎外観



▲開校20・30周年記念に制作された冊子（栄小学校所蔵）



▲校章と初代校長嶋根豊の言葉による創立の精神「緑を愛し 花を愛し 人を愛する」が収められた額（栄小学校所蔵）

吉川市立小中学校
教育ポータルサイト

Yoshikawa City Elementary School and Junior high school Portal Site

【学校教育目標】

『最後まで 課題をもって 笑顔で 取り組む子』

栄小学校では、学校名である「さかえ」の3文字をとって、学校教育目標を立てています。
知育・徳育・体育の面から子どもたちの健やかな成長を目指しています。

さ【最後まで 取り組む子】・・・たくましい子（体育）

自分で立てた目標を途中であきらめず、根気強く最後まで取り組ませています。ひとつのことをやり抜くことで自信を持ち、意欲が高まります。

か【課題をもって 取り組む子】・・・自ら学ぶ子（知育）

だれもが分かる授業、楽しい授業を展開することにより、学んだ力、学ぶ力、学ぼうとする力が身につけてきます。

え【笑顔で 取り組む子】・・・心豊かな子（徳育）

栄小学校のすべての子どもたちが笑顔でいられるためには、子どもたち一人一人が自分のことだけでなく、友だちのことを考えて行動する習慣を身につける必要があります。

▲吉川市教育ポータルサイトより。

中曽根小学校 (中曽根)

なかそね

中曽根小学校は、昭和では一番最後にできた小学校である。10周年記念誌によると、同校も昭和56年（1981）4月1日に吉川小学校から分離する形で開設された。昭和57年1月14日には校歌・校章発表式典をおこない、同日を開校記念日とした。

もりたひさ

そはら

校歌の作詞をした森田壽と作曲の蘇原昭三郎は、それぞれ初代の校長と教頭だった人物である。詞には地理と伝統、子どもたちへの愛情とその未来への希望を込め、曲は明るく歌いやすいものになるよう制作された。

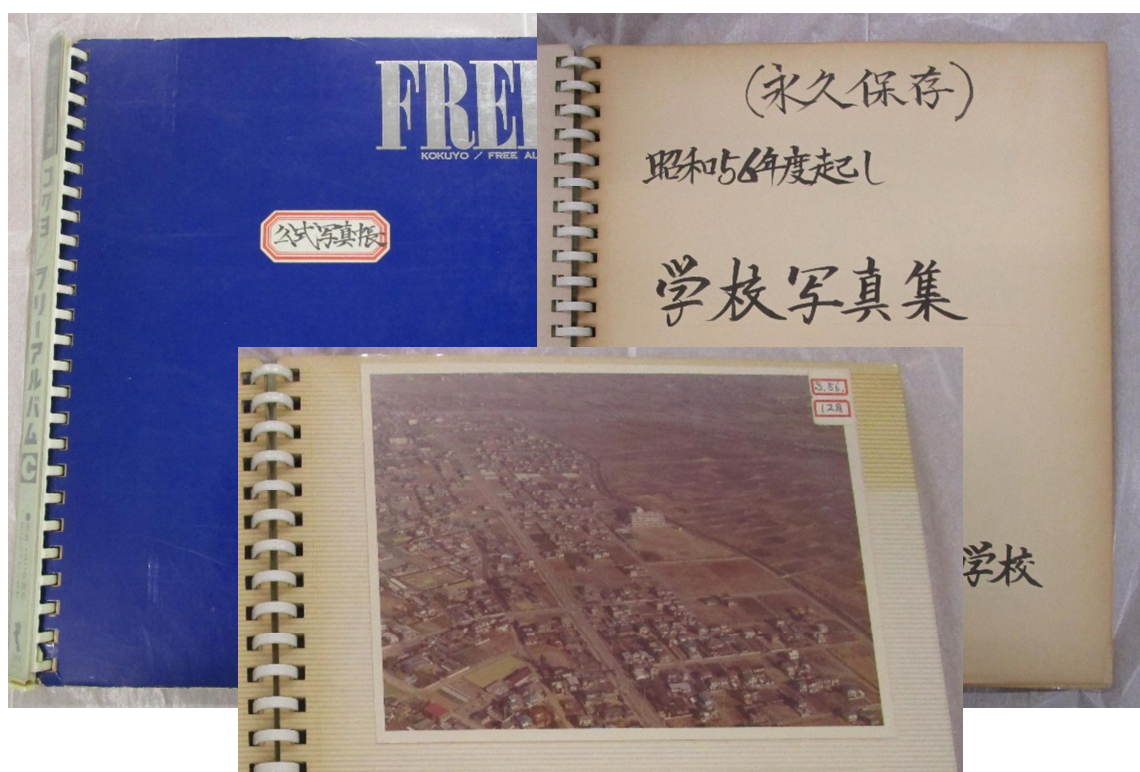
また、校章は公募で吉川町（当時）から広く募集し、原案を選定したという。



▲校旗



▲平成2年（1990）の開校10周年、平成22年（2010）の30周年記念の冊子。式典もおこなわれた。（吉川市教育委員会所蔵）



▲昭和56年度（1981）の開校当時の校舎周辺がわかる航空写真。区画整理がおこなわれたばかりだが、まだ田畑など自然も多く残っている。（中曽根小学校所蔵）



▲令和5年（2023）現在の校舎外観



▲吉川市教育ポータルサイトより。

美南小学校 (美南)

美南小学校は平成に入ってから開校した、市内で一番新しい小学校である。平成 24 年（2012）3 月 17 日の吉川美南駅の開業で人口が増加している美南地区へ、中曽根小学校から分離する形で平成 25 年（2013）4 月（開校記念日は 6 月 15 日）に開校した。平成 26 年（2014）2 月 25 日には校歌完成披露式典がおこなわれた。

校歌の作詞・作曲の^{こばやし まさと}小林真人氏は山梨県出身で作詞家、作曲家、ピアニストとして活動している。詞は美南小学校のこと、吉川市のこと、子どもたちの未来のことを表現しているという。また、歌詞のイメージや使用する言葉などは児童・保護者、教職員などから広く募集したものであり、小林氏との連名で「吉川市立美南小学校の皆さん」と表記されている。



▲校旗

▼児童・保護者などから歌詞案を募集した際のアンケート回答一覧など、校歌の完成までのやりとりが残されたファイル（美南小学校所蔵）



▲平成 23 年（2011）の開校を前に、建設を請け負う会社が作成した校舎の完成イメージ画（吉川市教育委員会所蔵）



▲吉川市教育ポータルサイトより。